

No.91

## A WORD FROM ANOTHER WORLD



## A Good Year for Globe Donna Rasalan Lampa

My experience as an assistant language teacher (ALT) placed in Higashikawa has always been different compared to that of my friends from other towns and prefectures. They also visit many schools to teach English, but few have after-school English classes and even fewer organize Halloween, Christmas, and Easter parties.

I worked and learned a lot during my first year, so I'm pleasantly surprised that my second year is turning out to be even more enriching. We have started to implement the Globe curriculum, and I have noticed that the classes have shifted away from just language learning and more towards communicating with others and learning about Japan and the world.

We have more time for Globe this year, so I have also been able to share more about the Philippines! Many of my students can now play traditional Filipino games like patintero, Dr. Quack-Quack, and buwan-buwan. We have also studied tinikling, a popular Filipino dance using bamboo sticks. Moreover, we have made tinola (chicken and ginger soup), halo-halo (shaved ice dessert), and polvoron (shortbread cookies) together. I have served a few classes some warm champorado (chocolate rice porridge), too.

I think very few ALTs are as lucky to have schools and communities that are as open to and appreciative of other cultures, especially because I know that these special classes mean more work. But thanks to everyone at Higashikawa, it's been a good year for Globe despite the challenges.

## 【ちょっと豆知識】宮地晶子

グローブGlobeという言葉が出ました。東川町の幼・少・中・高校で一斉に取り組んでいる国際理解活動の名称です。globeとは、もとは「地球、世界、天体、地球儀」を意味しますから、いいネーミングですね。では、野球のグローブgloveの発音は？ これはgを取ったら分かります。love ラブですね。

これはgを取ったら分かります。love ラブですね。

## グローブによい1年 ドナ・ラサラン・ランパ

他の町や県に配置された友人と比べると、ALT (外国語指導助手)としての私の体験は、いつも違っています。英語指導でたくさん学校を訪問する点は一緒ですが、彼らが放課後の英会話のクラスを持つことはほとんどなく、ましてハロウィーンやクリスマス、イースターパーティーを企画することはありません。

1年目はよく働き、よく学びました。2年目はさらに充実して、うれしい驚きとなりました。グローブというカリキュラムを始めて、授業はただ言葉を学ぶことから、他者とコミュニケーションを取ることや日本と世界について学ぶことにシフトしつつあります。

今年はさらにグローブの時間が増え、フィリピンについて皆さんと共有することができました。私が教える児童の多くは、今

ではフィリピンのパティンテロやドクタークワック・クワック、ブワン・ブワンといった伝統的なゲームができます。竹の棒を使った人気のダンス、ティンクリングもやりました。

さらに、ティノーラ(鶏肉とショウガのスープ)、ハロハロ(かき氷のデザート)、ポルボロン(ショートブレッドのクッキー)も一緒に作りました。チャンポラド(暖かいチョコレート粥)を供したクラスもあります。

こういう特別授業は手がかかることを考えると、こんな風に外国の文化にオープンで理解のある学校や地域に恵まれたALTはそうはいないと思います。いろいろ大変なこともありますが、東川の皆さんのおかげで、グローブにとっていい1年となりました。(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

## エイゴノマナビカタ

第158回

## 英語読み聞かせ

深海魚のチョウチンアンコウが好きです。頭からひらひらしたものをぶら下げて、獲物をおびき寄せる。最近の私はチョウチンアンコウのごとし。待つのは昼休みの図書館。獲物は、もちろん中学生。近寄って来た生徒に英語絵本の読み聞かせをします。

「英語習得には英語多読！」と信じてはいるものの、授業で取り上げる時間に余裕がありません。そんな時、司書の大友さんが「読み聞かせ」のアイデアを出してくれました。

これは、ずっと私の中にあった願いでもありました。使うのはイギリスの小学校でも使われているシリーズ。最初は2ページにつき英語が1行。絵も楽しいし、訳はしません(生徒次第で、こっそり日本語を足すこともあります)。読み終わると、生徒は大友さんが用意してくれた記録用紙に○をつけておしまい。

このシステムの難しいところは、昼休みがとてつもなく短いこと。また、いろいろな学年の子が来るので、タイミングを計るのが難しいところ。今後2行文、3行文と文章が増えたとき、昼休みに読み切れるか。バラバラの進捗をどうするか等々、課題はありますが、知恵を絞って続けたいものです。

先日、英検協会の人と話をする機会がありました。新しい大学入試を考えると「逆算して高校2年か3年で準1級を取得させたい。そこから逆算すると、中学3年生で準2級レベルに持っていきたい」という話。これは日ごろの私の考えと一緒にした。これに必要な力をつけるのにも英語多読は有効です。その初めの一步として、昼休み時の読み聞かせ。なんとか続けたいものです。